



手をたずさえて

あの感動を再び…!! “太郎ワールド”を満喫しよう!

今年もまたあの増田太郎さんが富中にやって来ます！心にしみるまっすぐなメッセージとともに、ときにやさしく、ときにパワフルに奏でるヴァイオリンの音色や歌…再び“太郎ワールド”を体感することができます。本当に待ち遠しいです。昨年、富中を感動の渦に巻き込んだ教育講演ライブ。昨年の2名の生徒の感想を載せました。多くを語らずとも、この2名の感想にすべてが集約されています

私は「増田太郎」という人物に驚きを隠せませんでした。とにかく、明るい！おもしろい！ステージ上の太郎さんの印象はこれでした。初めて生の演奏を聴いて「ヴァイオリンってこんなにも綺麗な音色なんだ」と感動する自分がありました。また、太郎さんの話を聞いて、誰かと支え合うことによって「人」として生きていけるのであって、喜怒哀楽を忘れず、自分の想いを伝えていくことが大切なのだと思いました。「ありがとう」「ごめんね」「大丈夫」「好き」…この世には数え切れないほどの言葉があります。その一つ一つを心を込めて相手に届けていきたいです。私にとって中学校生活ラストでとてもgoodな時間を過ごせました。



太郎さんが奏でる音色一つ一つにいろいろな思いが込められていて、演奏を聴いた瞬間、心の中で何か温かいものを感じました。障がいがありながら、なぜこんなに力強く「生きる」ことができるのか。そんなことをずっと考えていました。結局、納得のいく答えは見つかりましたが、このような問いをもつことも、また「生きる」という意味なのではないかと思いました。そんなことを思わせてくれる素敵な演奏でした。まるで夢の中にいるかのような楽しくて温かくて、ずっとずっとこの時間が続いてほしいと思いました。

ドラマや映画の音楽も手がける一方、精力的に全国の学校や各種イベントでの演奏活動を続けている太郎さん。2年連続の富中での演奏が決まり、太郎さん自身も富中生との再会を楽しみにしています。

昨年度のライブでは、今まで学校で演奏してきた中で一番の盛り上がりを感じたとお褒めの言葉をいただき

ました。今年の榎祭で富中生が見せたメリハリのある鑑賞態度であれば、11月22日のライブはきっと心に残る素晴らしいものになると確信しています。

また、多くの保護者の方々にも、是非“太郎ワールド”を体感してほしいと考えています。

我々に心を込めた演奏やトークを披露してくれる太郎さん。そして私の大切な友人でもあります。だからこそ、我々も心を込めて太郎さんを迎え入れたいと思います。



1本のメールからの奇跡的な出逢い

2011年、本宮第二中学校において、あの東日本大震災による地震で校舎が倒壊し、プレハブ校舎での不便な学校生活を余儀なくされていた状況の中、文化祭を郡山市のユラックス熱海で開催することになりました。学校の体育館も使用できず取り壊し作業が行われていました。例年は別の日に実施していた芸術鑑賞教室を文化祭の中に組み込むことになり、どんなジャンルで、どんな人に来てもらうかを検討していたところ、東日本大震災の被災者の避難所になっていた郡山のビックパレットふくしまで6月に太郎さんが演奏し、すぐ感動したとの話を知人から聞きました。すぐに太郎さんのホームページを見ました。ハンディを乗り越え、各地でコンサートや講演ライブを積極的に展開している太郎さんの姿に強い共感を持ちました。次元は違うかもしれませんが、なぜか当時の本宮二中の生徒たち、教職員の置かれている立場と重なる思いがしました。またホームページ上の『こんな時代だけど、こんな時代だからこそ、高らかに、希望を歌っていきたい』ぜひ、増田太郎をあなたの街に呼んでください。』というコピーにも心を動かされました。「生徒たちに元気・勇気を与えたい!」という思いから、当時の学校の状況と文化祭での演奏依頼をメール送信しました。すると、すぐに「ぜひ演奏させてほしい!」との返信が返って来ました。10月18日にはアメリカのニューヨークでの演奏を控え、本来であれば15日にはアメリカにいる予定でしたが、日程を調整して文化祭での演奏を可能にしてくれたのです。本当にありがたかったです。そして、10月15日の文化祭での太郎さんは、期待通り当時の生徒たちに大いなる元気と勇気を与えてくれるすばらしい演奏とトークを披露してくれました。



1本のメールからの奇跡的な出逢い…。それ以降、太郎さんの講演ライブやクリスマスライブなどにも参加させてもらっています。今は大切な友人です。2016年には、前任校の日和田中でも講演ライブを開催することができました。その後、生徒達が総合学習で作った《生きる》という詩に、太郎さんが曲をつけてくれました。そして、この楽曲はCD化されました。昨年の富中での講演ライブでは、この《生きる》が、生徒による朗読と太郎さんの演奏の初めてとなるコラボレーションによって披露され、大きな感動を呼びました。

震災復興にも尽力している太郎さんですが、先の台風19号による福島県や郡山市の被災に対してもとても心を痛めています。本校は直接的な被害はありませんでしたが、被災した教員や関係者はいます。そういった状況の中で“希望の光”となる太郎さんを富中に招くことができることは、とても意味のあることだと考えます。

Profile

5歳よりヴァイオリンを始め、20歳で視力を失うが、《ヴァイオリンを弾きながら歌う》という独自のスタイルで音楽活動を展開しており、その生命力あふれる演奏は心に響くすばらしいものです。太郎さんの奏でるヴァイオリンやピアノの音色、歌声、その1曲1曲には彼の思いや願いがこもっており心に深く響き渡ってきます。また、演奏の合間のトークも、時にユーモラスで、時に静かで、時にずっしりと重く、聴く人の心に沁みてきます。



■ ヴァイオリニストとして、森山直太郎氏の《手紙》(シングル《さくら》カップリング収録)ほか、普天間かおりさん、奥井亜紀さんなどのレコーディングやコンサートに参加。指揮者久石譲氏、小林研一郎氏のオーケストラメンバーとしてTOKIO、辻井伸行氏との共演。福島の詩人：和合亮一氏との共演。林真理子さん直木賞受賞作：小西真奈美さん朗読のオーディオブックの音楽制作。詩人谷川俊太郎さんの息子さんであるジャズピアニスト谷川賢作氏とのディオライブ開催。スポーツイベントでも松岡修造さん・平井理央さんと共演。

■ 2008年、作品「拍手の中に『笑顔』が見える」にて、《第6回オンキョー点字作文コンクール》グランプリを受賞。(厚生省・日本盲人福祉委員会・毎日新聞後援) 2009年、NYセントラルパークで開催された《JAPAN DAY》にて演奏。2011年秋にはNYハーレムのゴスペルクワイヤーのステージに招かれる。

■ 《Waltz Noir (ワルツノワール)》がテレビ東京《美の巨人たち》エンディングテーマとして放映。《パッセのワルツ》がNHK BSプレミアム《世界ワンワンドキュメント》挿入曲として放送。TOKYO MXテレビ2018元旦特番《世界見聞録》書き下ろしテーマ曲として《ノスタルジア》を。同局ビジネス系番組《ザ・ビジョナリー～異才の花押》テーマ曲として《エバーグリーン》を提供。また、ももたあこさん原作コミックをドラマ化した作品では、全13話の音楽制作と演奏を担当。六角精児氏主演、高島礼子さん、柄本明氏共演の映画《くらやみ祭りの小川さん》(2019年10月公開)の劇中音楽32曲をすべて担当。

■ アルバム《希望の景色》、《カラフルモメント ～いろいろな色の毎日が、ぼくらの背中を強くしてくれる》、福島の中学生の群読とのコラボレーションCD《生きる》、著書にエッセイ《毎日が歌ってる》(すばる舎)など